

## プロジェクト報告書

京都シネマ インターンシップ生

田中純貴 宮井真里菜 植西実誉

私たちは京都シネマで10月29日から11月4日に行われる PFF（ぴあフィルムフェスティバル）の運営サポートを行う事を軸として、6月から11月の5カ月間、インターンシップの活動を行いました。

まず、インターン生3人共映画に関する知識が希薄であったため、今回運営サポートをさせてもらうにあたり PFF についての基礎知識をパンフレットを読み込み勉強しました。

そして7月2日、初めての実習は PFF スカラシップ作品である鶴岡慧子監督の「過ぐる日のやまねこ」公開初日に、鶴岡監督と天野プロデューサーのトークショーの司会、進行を務めました。初めてお客様を迎えるという立場に立ち、前に出てトークを回すという体験に私たちは緊張のあまり頭が真っ白になり、事前に作っていた台本を棒読みすることで精いっぱいでした。トークショーを終え、PFF 荒木ディレクターからは「お客様へ伝えたいという意識が足りないから言葉に説得力がない」という指摘を受け、京都シネマの横地支配人から「今日の反省を PFF 本祭に生かそう」という言葉をもらい、各々反省点は反省し、次に繋げたいという意識を持った経験でした。

次の実習では LumenGallery で行われた VIDEOPARTY にて受付業務などのお手伝いを行いました。VIDEOPARTY は3日間で約90本の映像作品が上映されるイベントで、実習の目的は PFF に向けて映像作品を見に来るお客様を迎えるという体験をすること、PFF 入選作品の鑑賞に向けてたくさんの映像を見ることに慣れるということでした。受付業務は、普段自分たちがアルバイトでしている接客とは違った対応が求められる、ギャラリーの雰囲気もあり、雰囲気に合った話し方や声のトーンを心掛けました。

そして7月21日、22日、31日は3日間に分けて今年2016年度の PFF アワード入選作品20作品の鑑賞をしました。これは、これから京都、神戸にて行われる上映プログラムを考えるためです。長時間であり、これからプログラムを考えるために集中力のいる鑑賞でしたが、VIDEOPARTY での映像慣れが役に立ち、最後まで集中して鑑賞することができました。

そして8月7日のプログラム案締め切り日まで、3人で話し合いを重ね、プログラムが決定しました。

そして、これから本格的に PFF 本祭に向けての活動が始まるにあたり、8月17日、18日に広報活動に関する打ち合わせを行いました。ここで去年までの動員人数データを見て、今年の動員目標を250～300人に設定しました。この動員目標を達成するために具体的にどのような広報活動を行うのがという話し合いの中で、メインターゲットを学生とし、龍谷大学、立命館大学、精華大学、京都造形大学へ行って宣伝活動、チケットの手売りを行うこと、メディアへのアプローチは新聞を重点に置き、京都新聞、読売新聞、毎

日新聞、朝日新聞への取材交渉を行う事を決めました。また、本祭当日にゲストとしてお招きする受賞監督を決め、依頼の連絡をすることも決めました。

そして夏休みが明け、PFF 関西上映のチラシが完成し、1人1000枚ずつ持ち帰り、身の回りから地道に広報活動が始まりました。10月以降は監督との連絡、新聞社の記者の方との連絡や取材、大学での広報活動など、毎日が目まぐるしく過ぎていきました。

また、当日来ていただくことのできない監督にも、お客様に直接言葉を届けたいと考え、ゲストとして来ていただくことのできている方以外全員に対してメールや電話でメッセージを頂き、当日掲示をすることを企画しました。15人ほどと一気に連絡をやり取りするというのも初めての経験で、漏れないかという事には特に気を使いました。

さらに、これまで行ってきた広報活動の成果をはかりたいと考え、アンケートの作成もを行い、当日配布することにしました。

そして迎えた本祭、私たちの業務はお客様にアンケートやチラシを配布すること、上映前挨拶としてマイクを持って話すこと、ゲストが来てくださった日はゲスト対応とトークショーの司会をすることです。7日間毎日16時には劇場に入り、21時半頃終映しお客様を送り出すという開催期間はとてもハードでしたが、これまで行ってきた広報活動が活きているという事を感じることができたり、たくさんのお会いがあり、監督の方々ともお話ができ、とても充実していました。トークショーでは、初めて司会、進行をした時のような、頭が真っ白になるような緊張ではなく、緊張感はありましたが止まることなく話せたという実感を持つことができました。やはり、話の振り方や聞き方、間の取り方に関してはまだまだ課題が残りますが、この数カ月での成長は確かに感じる事ができました。そして、動員者数は、目標である250~300を上回り308人を動員することができました。前年比としても100人近く増加しており、アンケートの結果からは初来場が65%という事もわかりました。数値がすべてではありませんが、このように目に見える結果として動員目標を達成できたことに、強い達成感を感じました。

5カ月間、長いようで、あっという間で、しかし確実に各々成長できたと感じる濃密な期間でした。PFFの運営としては終わりですが、運営する中で経験したことや、悩んだ経験はこれからの自分たちにとってとても大事であると思います。今回の経験を糧にこれから自分の進路、人生を切り拓いていきたいです。